

## 一四七 教祖百十年祭教祖への祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教△△分教会長 慎んで申し上げます

教祖は天保九年十月二十六日旬刻限の到来と共に 人間宿し込みのぢばに於いて 御魂のご因縁から「月日のやしろ」とおなり下され 親神様からの直々の最後の御教をお啓き下されたばかりでなく 一れつの子供可愛い親心から わざ／＼逆境を生み出され 傍眼には如何なる難渋な道すがらも心明るく通れるひながたの親としての道をお示しく下さいました

中でもよろづたすけの元立てであり陽気ぐらしの原動力であるかんろだいづとめの勤修と完成に向かわれる道中には 官憲からの度重なる圧迫干渉に加えて 十数度に亘る獄舎への御苦勞がありましたでしたが その中にも『この所におばあさんは居らん 我は天の將軍なり』と堂々と神一条の精神を貫き通されました しかも 獄舎からのお帰りの時には その沿道はお迎えの人々が山となり 巡査の抜剣にも拘らず「命の無い処を救けて貰たら 拜まんとおられるかい」というような尊いたすけ一条の実践をお遺し下さいました

明治二十年陰曆正月二十六日 教祖を案じる上から つとめに取り掛かることを躊躇する人々に『神が怖いか 律が怖いか』と仕込まれ 自らの身上を台として「命捨て、も」という心の者許りが勤めに出来ましたが このつとめの完成を満足気に聞かれ乍ら現身をかくされました

しかし『子供可愛い故をやの命を二十五年先の命を縮めて 今からたすけするのやで』と仰せられ 生前同様存命の理を以て世界だすけに門出された親心を私達は学ぶことが出来ました この元一日から百十年を経た今年 御本部では毎月教祖百十年祭をおつとめ下さいますが これの教会では御本部に魁けて 教祖百十年祭を只今執り行い 一同教祖にお引き寄せ頂き 今日までお導き頂いた御礼を深く／＼申し上げます  
今年一年は教祖百十年祭の年として お打ち出し頂いたおぢばの御声に応えさせて頂くべく 一人でも多くの人々にをいがけ おたすけをさせて頂き 一同栄ある教祖の道具衆にふさわしい誠の道を一步步々踏みしめて参りますが 私達の周辺に思召し下さる陽気ぐらしの輪が更に／＼広く大きく伸び広がって参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます